

令和2年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校(定時制) 学校長名：西村文宏 印

めざす学校像 育てたい生徒像	生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語る学校の3つの基本姿勢のもと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。
-------------------	--

本年度の重点目標	1 生徒一人ひとりを生かす丁寧な支援や指導に努める。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 規律ある生活習慣を身に付けられるよう育てていく。
	3 自ら学ぶ意欲と考える力の育成を図る。

中期的な目標	○支援、指導のための情報共有、サポート体制の確立 ○規律の中から生まれる自立心を基盤として、自主・自律の精神のもと、自ら学ぶ意欲を高め、学び続けられる力を育成する。 ○教員のICT活用能力の向上、指導内容や授業方法の工夫と改善及び教材の開発・作成
--------	---

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	自己評価及び学校関係者評価の結果を、インターネットのホームページによって保護者をはじめ広く公表している。
--------------------	--

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価						
重点目標				年度評価 (3月15日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善方策
1	・様々な課題や困難、就業環境や年齢の問題、社会への適応力、発達上の課題等を内包している生徒を適切に支援する必要がある。	・学習面や生活面の課題に対するサポート ・進路指導の取組	・生徒情報の共有と組織的なサポート体制の確立を図る。 ・生徒一人ひとりの就業状況の把握と、適切な情報提供により自己実現に向けて取り組む意欲の高揚を図る。 ・生徒の意識向上に向けた進路関係行事を実施する。	・生徒情報ファイルの活用度が昨年度比10%以上向上したか。 ・進路関係の各学年行事を年2回以上実施したか。	・生徒情報ファイルの活用度については、昨年度並みであったが、就業状況共有率は90%、全体的な情報共有率は79%であった。 ・行事の実施に配慮が必要な中、1年生に対して「職業レディネステスト」を実施した。	B ・情報共有について、個人情報管理の徹底のもと、どのような方法が適切なかを研究し、共有率100%となる実践を目指す。 ・リモートやオンライン環境下での実施を含め、進路関係行事を実施し、低学年からの生徒の意識向上を目指す。
2	・基本的な生活習慣や授業への取組姿勢、集団での規律ある行動等に課題のある生徒を適切に支援する必要がある。	・生徒指導の取組 ・特別活動の取組	・生徒との信頼関係の構築 ・校外の巡回指導の実施 ・非行防止や薬物、交通に関する講話の実施 ・生徒会行事の充実と生徒の主体的な企画運営	・毎日の校内巡回指導と、週2日以上校外の巡回指導を実施したか。 ・それぞれ年1回以上の講話を実施したか。 ・生徒会行事への生徒参加率が昨年度比5%以上向上したか。	・信頼関係については、生徒の高評価は90%であった。 ・巡回指導の教職員の高評価は84%であった。 ・非行、薬物、交通に関する学習や指導に対する高評価は、教職員で100%、生徒では93%であった。 ・参加率は昨年度並みであったが、コロナ禍でもほとんどの行事を行うことができ、10%向上したのもあった。	A ・日常的な生徒との信頼関係をベースに、各種の講話やカウンセラーとの連携等により、組織的な指導、支援に努めていく。 ・生徒会行事の内容等について見直し、生徒の声を反映し、自治的な活動につながるよう、工夫、改善に努める。
3	・教材の工夫や学習への動機付け等、生徒の実態に応じた授業改善の取組を推進する必要がある。	・基礎学力の充実とそのための教材開発 ・ICTの活用 ・実習、実験、体験の重視	・生徒の実態に応じて授業内容を精選し、一人ひとりの学力に応じて基礎・基本の徹底を図る。 ・スマートルームの活用や、体験や活動を取り入れた興味をわく、わかりやすい授業づくりに努める。	・特に計算力の向上がみられたか。(計算技術検定合格レベル3名以上の達成) ・生徒の学校評価における授業のわかりやすさや工夫に対する達成度が75%以上であったか。	・1年次に習熟度別授業展開を取り入れ、計算技術検定3級に3名が合格し、目標に達した。 ・生徒の評価では、授業の分かりやすさが93%、工夫が87%。教職員の評価では、個に応じた指導が95%、工夫が84%であった。	A ・引き続き、習熟度別授業展開の計画や実施方法を研究し、より適切な「個別最適化された学び」につながる実践を目指す。 ・単元配列表や教材のライブラリ化、授業研究などによる組織的な授業改善に努める。

学校関係者評価	
令和3年2月10日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>校長を除いた本校の学校運営協議会委員9名に学校評価アンケートを依頼し、7名の方から回答を得た。</p> <p>本年度は授業参観の機会がなく、生徒の様子や指導の実態については、「よくわからない」とされた方もいたが、概ね高評価であり、以下のご意見やご提言をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の仕事や将来について良く対応していると思います。 ・できれば修学旅行のような行事をしてあげることが高校生活では良いと思います。 ・障がいのある生徒への合理的配慮を積極的にお願いします。 ・昼間働いて夜間学ぶ生徒は、目的意識が明確で真剣さを感じます。是非頑張ってほしいものです。 ・「学び直し」が注目される昨今、定時制の在り方にも変化が生じることも考えられますが、生徒のニーズを大切にできればと考えます。 	